



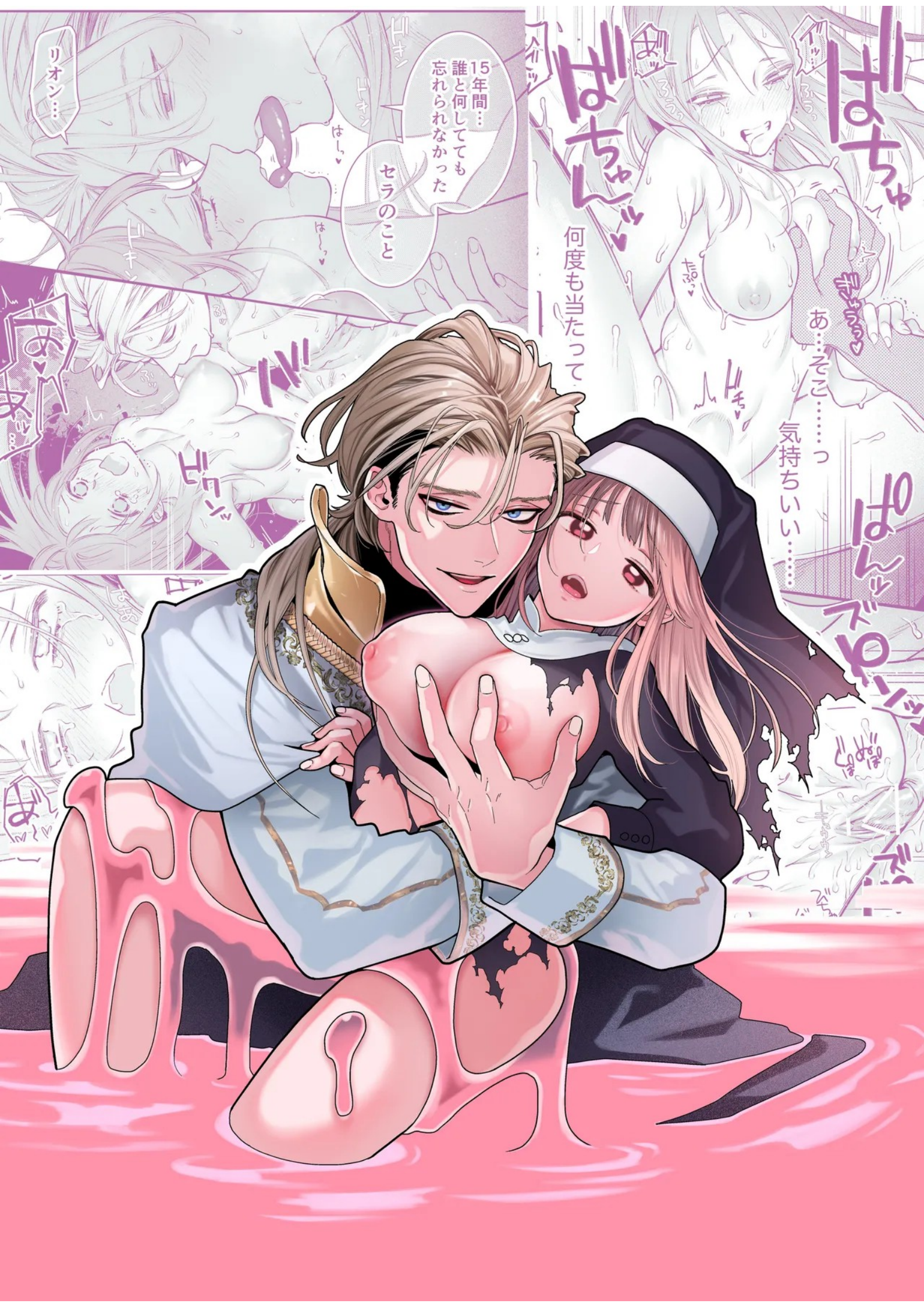
私たちの
幼馴染の
はずだった

聖騎士が

ダンジョン
の密室で

積年の
執着を告白

して
きた!?



はーちゃん

はーちゃん

あ……そこ……っ
気持ちいい……っ

ぱん
ズ
ン

15年間……
誰と何しても
忘れられなかった

セラのこと

はー

はー

リオン……

はー

はー

はー

ただの幼馴染のはずだった聖騎士が
ダンジョンの密室で
積年の執着を告白してきた!?

これは
とある異世界の話

人々が
剣や魔法と共に生きる
とても不思議な世界の
できごと…

だけど
勇者と竜の物語でも
お城に眠る姫の物語
でもない

この世界で平凡に生きる
一人の女の子のお話…



聖遺物探査協会

セラ

お待ち
許可証よ！

はあ、
ありがとうございます
ございます



やっと
この日が来た

私はセラ
聖遺物探査協会に
所属する
新人の探査員



はいつ
シルヴィア主任

初めての
聖遺物探査ね
頑張って
セラ!



聖遺物探査協会
とは…

この世界を創造した
「大いなる意思」にまつわる
遺物の数々を
収集保全する機関のこと

世界中に遺された
断片的伝承の収集や
古代遺跡などの
研究も行っている

ずっと
協会本部で研究を
担当していた私が

探査員の資格を
取った理由

それは…

やっぱり
探査の現場に
参加したかった
から…!



はやく
一級探査員に
なりたい

いいな…

あんなふうな
正式な
探査チームの
一員として

攻略任務に
つきたい…



初級探査員である
あなたの任務は

ダンジョン攻略に
正式なチームを
派遣するための
事前探査よ

セラ

憧れは
わかるけど
焦らないで

くれぐれも
深追いで危険を
冒さないようにね

はいっ





リオン…!?

あらあ
2週前には
言ってくれなきゃ

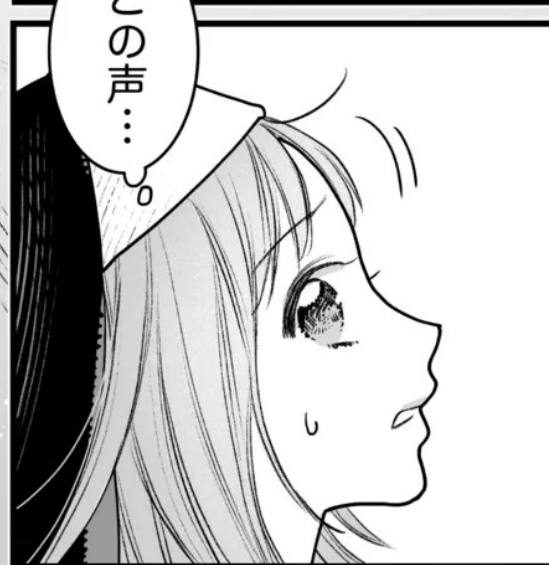
じゃあ
2週後の最前列に
入れておいてよ

うふふ
いいわよ♡



シルヴィアさん
今夜の予定は?

!



この声…



どうして
こんな所に
いるの?

今頃
大規模遠征中の
はずじゃあ…

やあー
セラ

キミが
探査員試験に
やつと合格
したって
聞いてねー







いまでは
正式な探査チーム
にも配置される

立派な協会騎士…

ずっと本部で
研究の仕事を
していた私と違って

リオンは現場に出て
めきめき出世した

…それで？
私の初めての
現場仕事でも
からかいに来た？

違うよ
相変わらず
ヒネくれてるな
セラは

あっそう

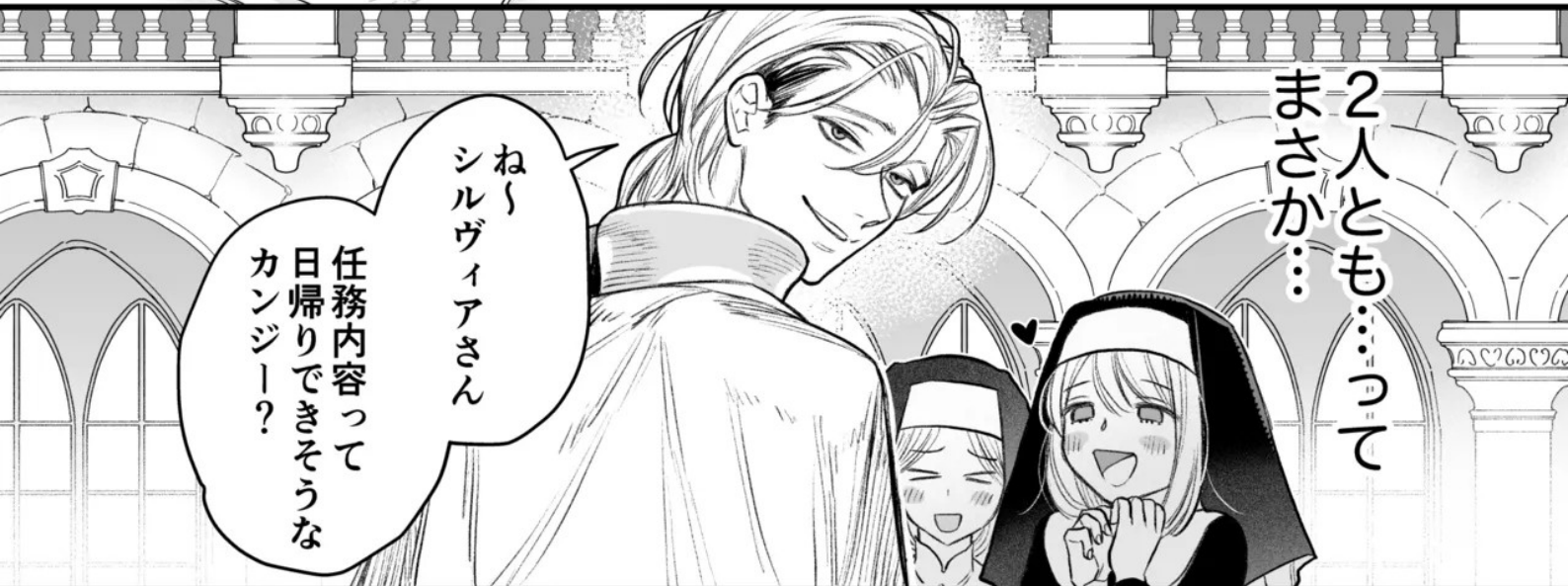
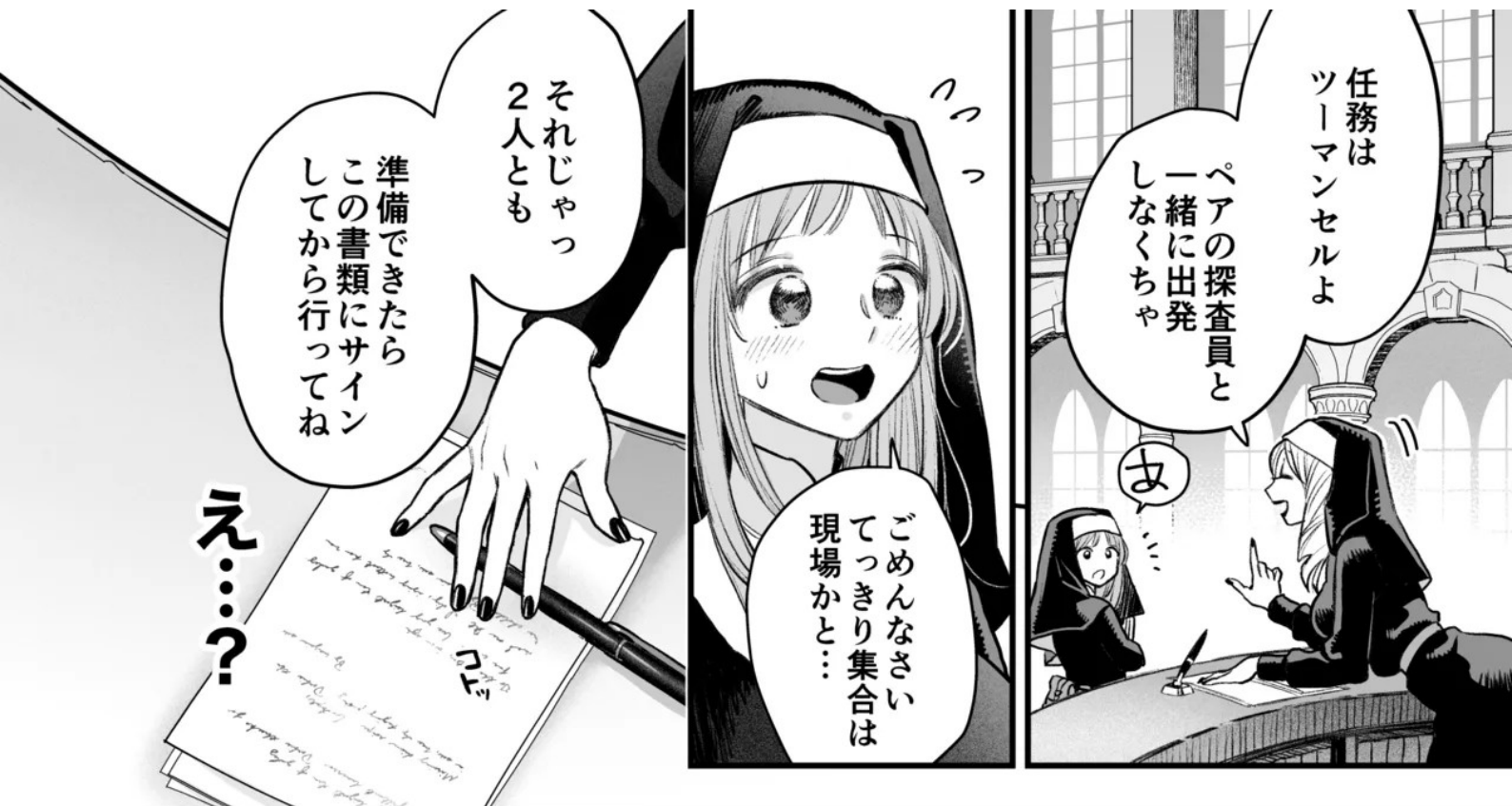
いつか私も
出世したらそんな
セリフ言ってみたい

それじゃ
お先に!!

仕事があるから
来たのさ

しかも
オレ史上最も
退屈な仕事だ

待って
セラ!



こんなはずじゃ
なかったのに…

普通じゃ
ないわよ

探査員と護衛は
等級の近い同士で
組むはずでしょ？

ポニー

てく

てく

ま

手違いって
ヤツだろ

それか…

…それか？

頼りない新人に
エースを付けて
やらなきゃって
事かもなあ

おほは

かま

…ッ!!

ねえ
リオン

前から
聞きたいと思って
いたんだけど

えっ
なに？

どうして私にだけ
意地悪な態度なの？

女性とみれば
馬にも紳士的
ってみんな言
ってる

なのに
私と居る時は
いつも…

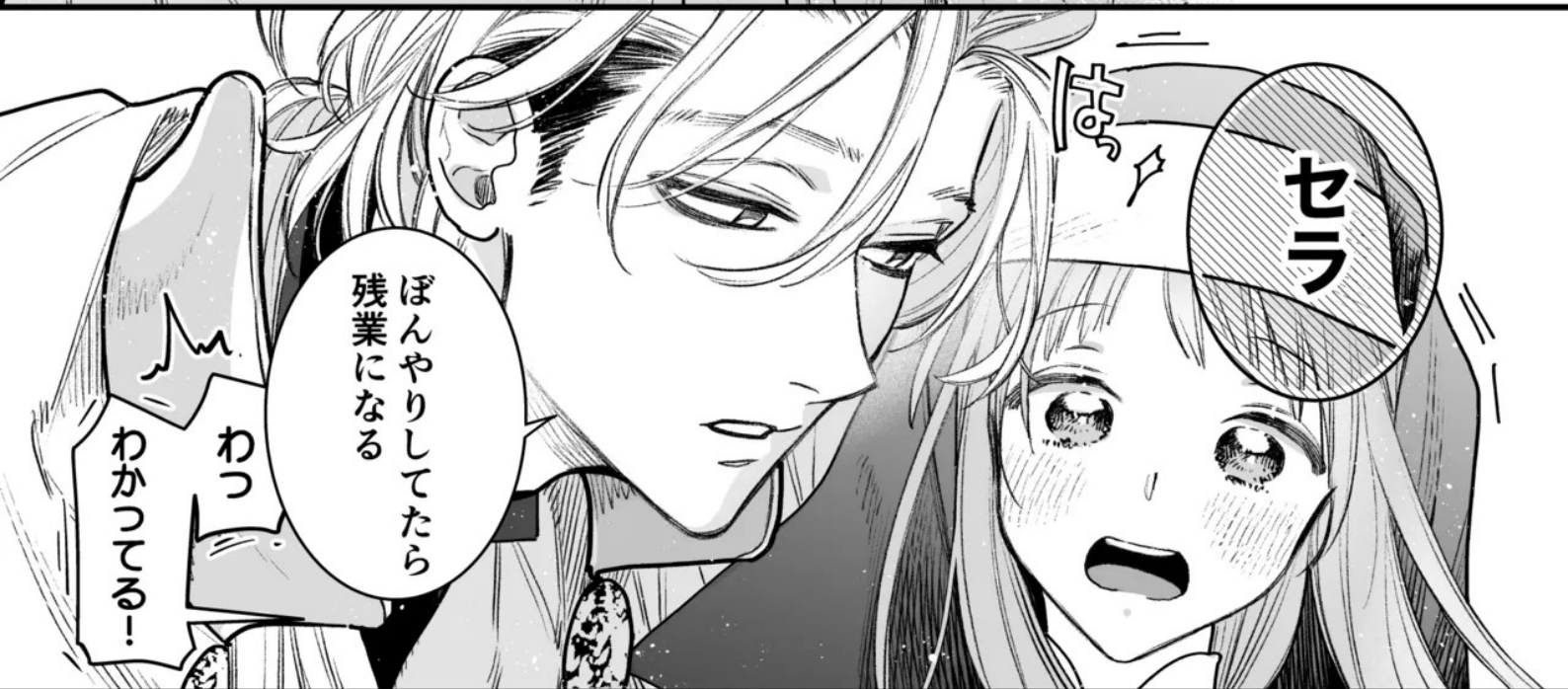
……それってさ

オレに優しく
されたいってコト？

え…？









入り口付近は
広間になって
いるのね…

ちゃんと
メモしながら
歩けよ？

いま書いてる
ところっ



へた

ギョッ

かあ

触るな

これ
なにかしら
見慣れない
機構だけど…

畏だから



ありがと

了解…
畏…注意つと

なんか
はじめじめした
場所だな

スライムとか…
植物系のモンスターが
出てきそうだ



行きたい
けど…

シルヴィア
主任が深追いは
ダメだって…

そっか
なら仕方ない

詳しい報告が
出せばセラの
探査成績も
良くなるし…

少しくらい
危険があっても
オレが一緒の今なら
対処できるだろ

だから…

やっとセラの
力になれるかもと
思っただけ

やっと？

ちよつとだけ
昔のリオンみたい…

ありがとっ

じゃあ
もう少し先まで
付き合って！

ああ！
行ってみよう

昔とは何もかも
変わってしまった…

そう思っ
ていたけど

本当は……

ねえ
リオン

私ね…

うわ

え…?

木の根が動いた…!?

セラ!?

何もない所で
コケるなよ…



セラ
初めての現場が
怖いなら
切り上げても
いいんだぞ？

ワスッ

な
何でもない！



えっと…

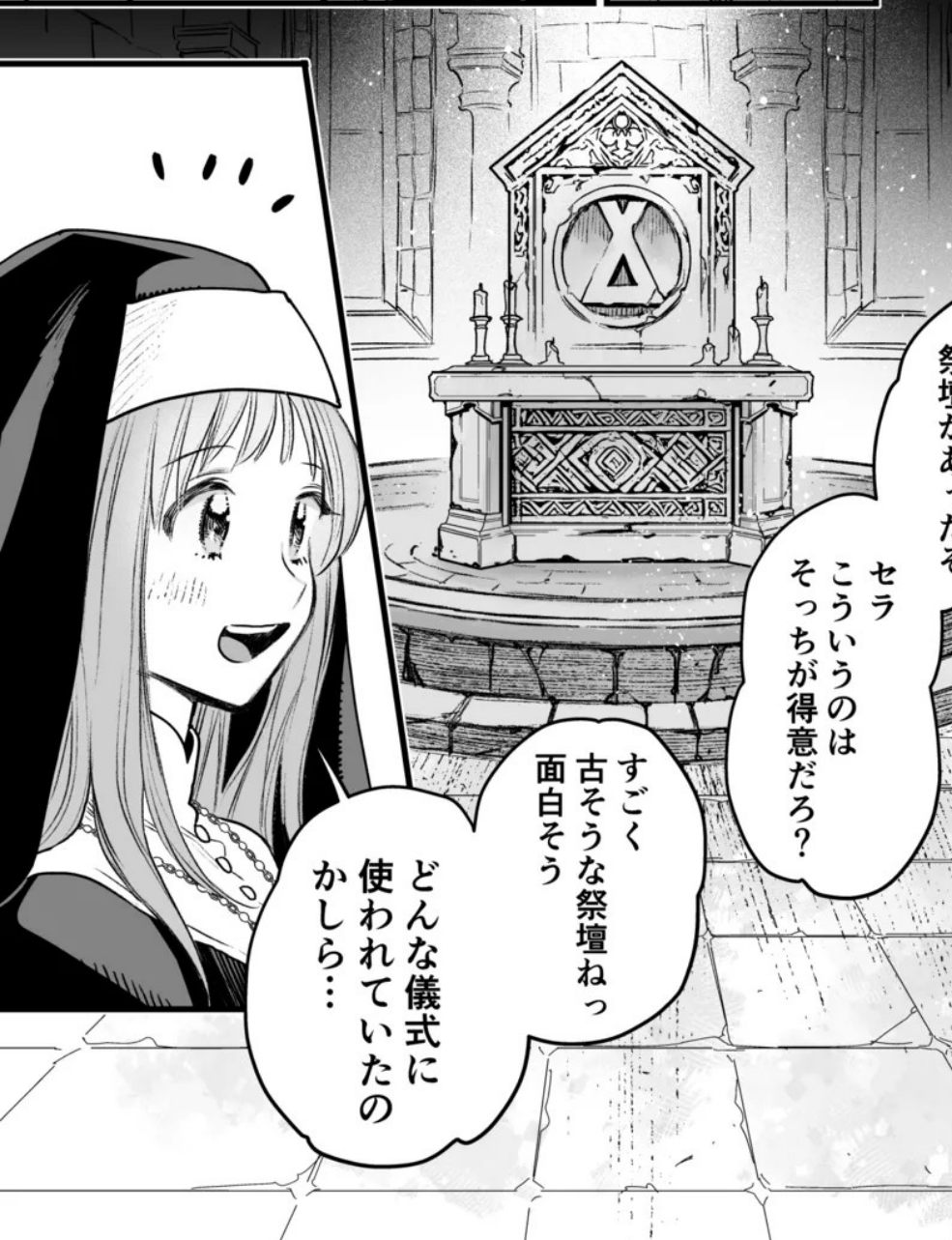


床に這う
木の根が
突然動いて…

ほんとよ！

木の根が
うごいた？

どれ？



どんな儀式に
使われていたの
かしら…

すごく
古そうな祭壇ねっ
面白そう

セラ
こういうのは
そっちが得意だろ？

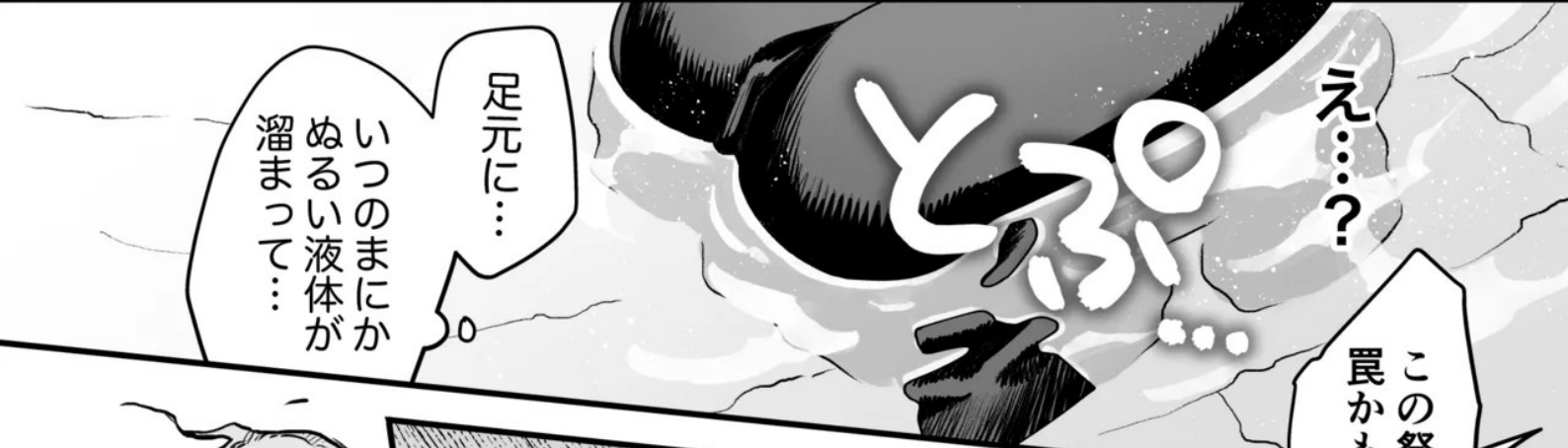
さあて
いかにも怪しい
祭壇があったぞ

こっ
怖くなんか
ないったら！

見間違いだったのかな…













背中を
向けてちゃ
助けられないし

自力で
なんとか
するっ！



今のリオンには...
絶対見られたくない.....っ

たしかにそうだけど...

キャー



っえッ
裸くらいで
なんだよ

昔は
風呂まで一緒
だったって
いうのに...



落ち着いて...

と30...

まず
このドロドロを
抜け出して

あとはリオンに
マントでも
借りればい



片方づつ足を抜けば
こんなドロドロ.....

あっ

待っ...

おは



リオン1人で
先に本部へ
戻っていいわよ

私もここを出たら
すぐに切り上げる
つもりだから…

名探偵

でも

マントだけ
置いてって

セラを一人に
するなんて
絶対ダメだ

論外



この根っこ…
よく見たら
腐ってる

かなり昔に
作られた
罠だな

それなら
すぐ壊せるん
じゃない!?



それに
服を溶かして
終わりとは
限らないしな

この後も
なにが
起きるか…

あはは…
なにかって
なにー?

カッパ
もうっ！

床のスライムが
合体して襲い
かかってくる…

とか…っ？

えっ……

たふ

ふ

!!

アホ

う

お





嫌…なのに……

セラに弱虫って
思われたくなくて
頑張ってたんだぜ

まあ
頑張ってた理由は
ほかにもあるけどな

セラの隣を
誰かに取られたく
なかった…とかさ

まあ

ガキの頃って
そういうモン
だよなっ

どんどん
身体がアツくなって……っ

きもちよく…
なりたくない…のに……っ

たす…けて…
リオ…ン…





ギョッ

クソッ

どこかへ
逃げ込む
しかない…

見て！

あそこに
扉があるっ

ダダ

ダダ



違うのっ
追ってきてる…!!

うお



…リオン
どうしよう

わかってる！
オレのマントを
貸すから…



ズッ

バッ

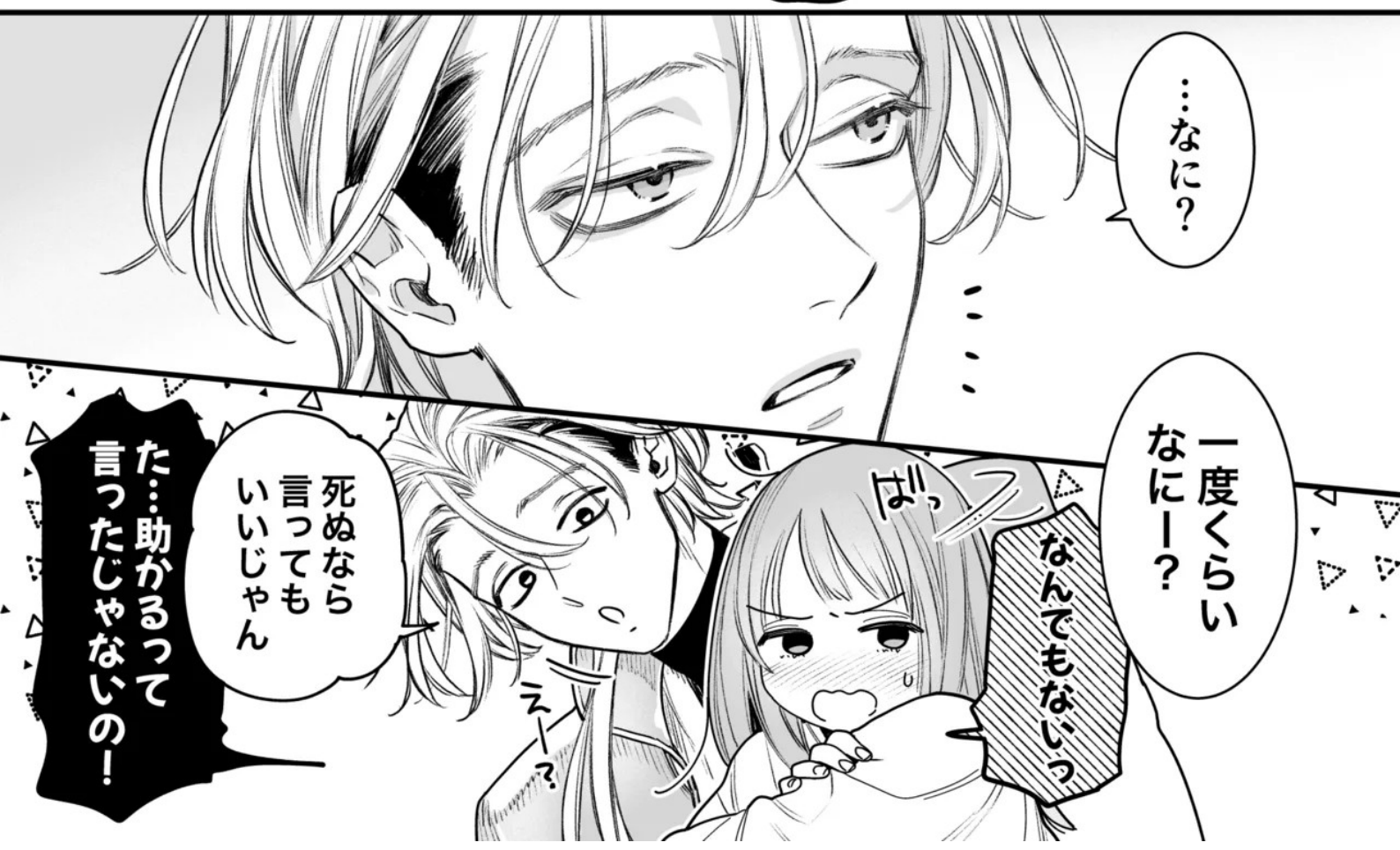
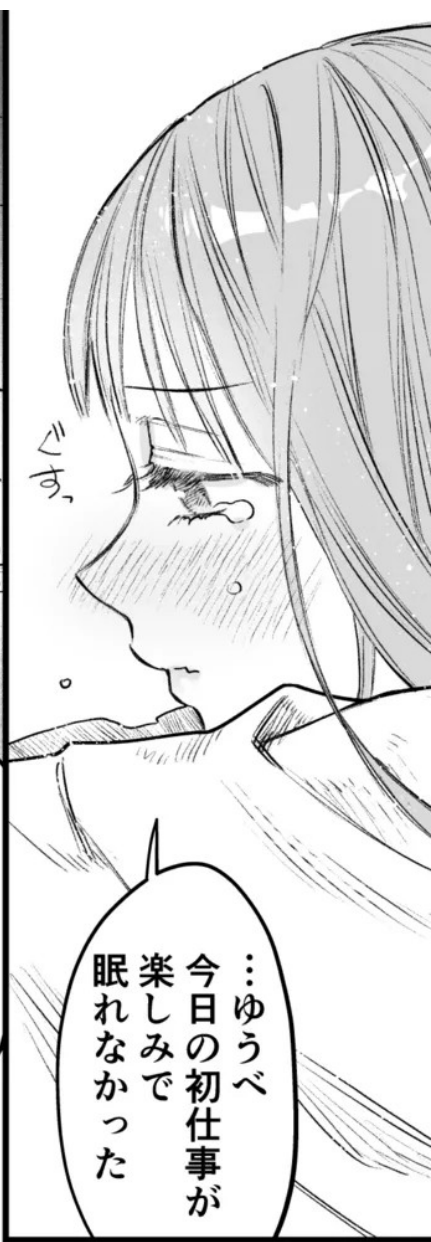
30

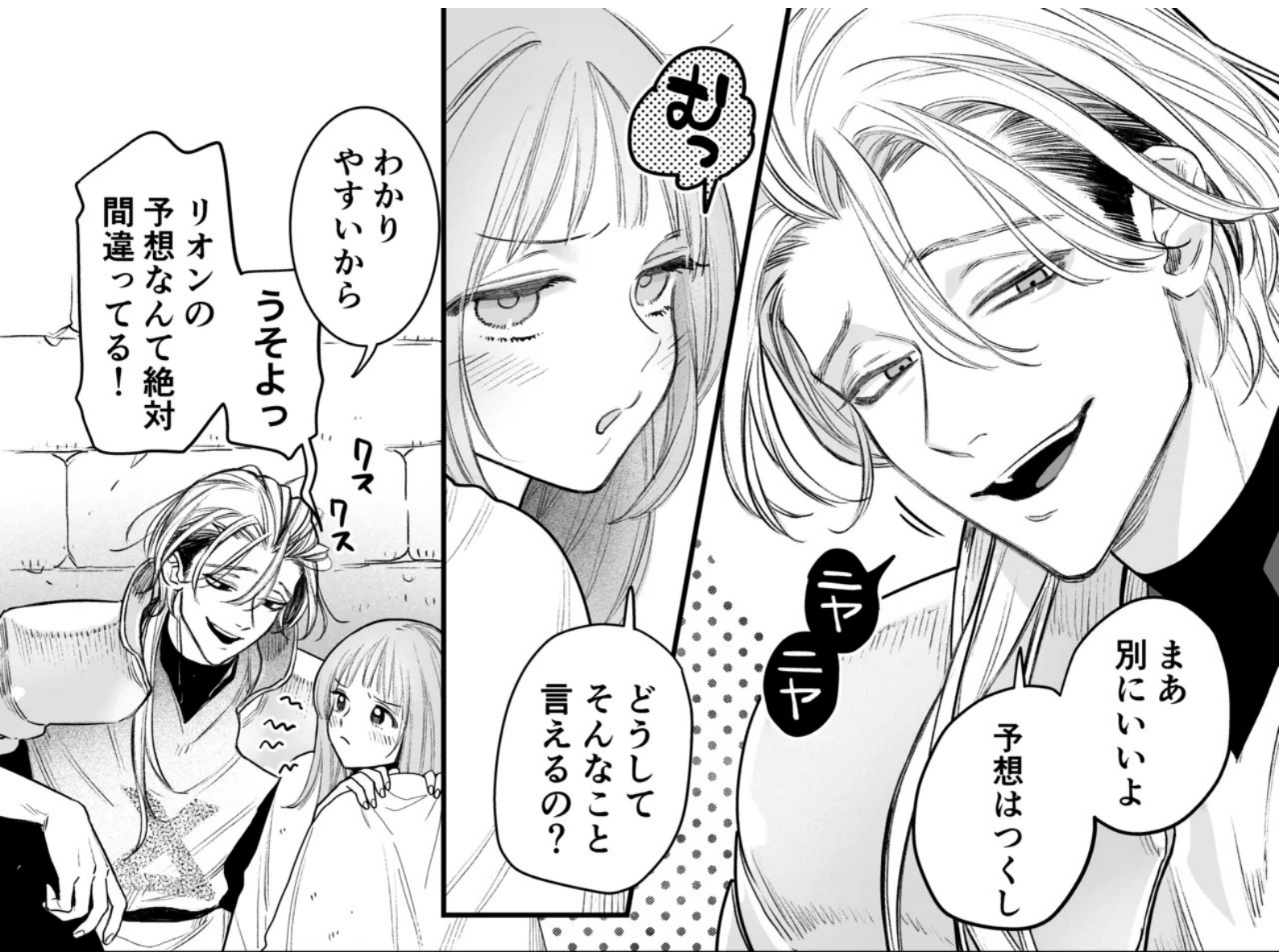




リオン…
私達
この部屋から
出られなく
なっちゃった…？











オレとしてみる？

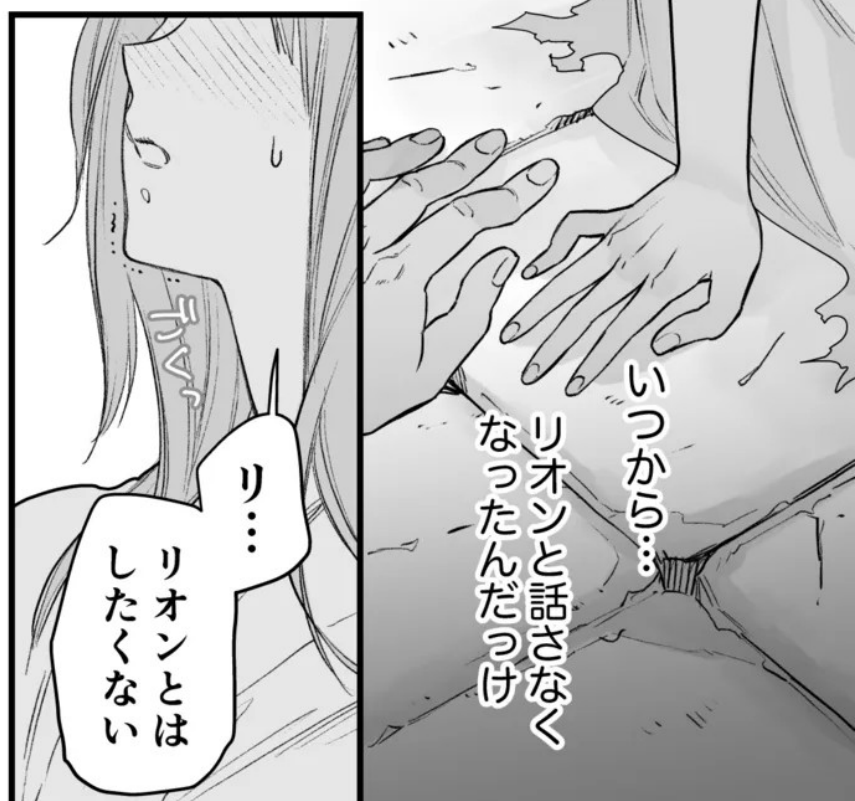


え……

な…何を…

だから、
人生最後の
キス？
セックス？

まあ
どっちでも
いいけど



いつから…

リオンと話さなく
なったんだっけ

リ…

リオンとは
したくない

昔の2人みたいに……

なんで？



……あれ？

リオン 笑ってない

やっぱり
オレが「弟」だから？

ちが…

あなたは私の
大事な友達で…



おれ
弟じゃないよ

あれ…？
私たち…

前にもこんな
会話をして…
それで……

セリのことか…

ヒキン…



そうだ
あのとき……

リオンの
真面目な顔を見てると



私達の何もかもが
変わってしまう気がして



怖くなって
はぐらかした

その時から
リオンと私は……



熱い舌……
苦しいほど
かきまわされて……



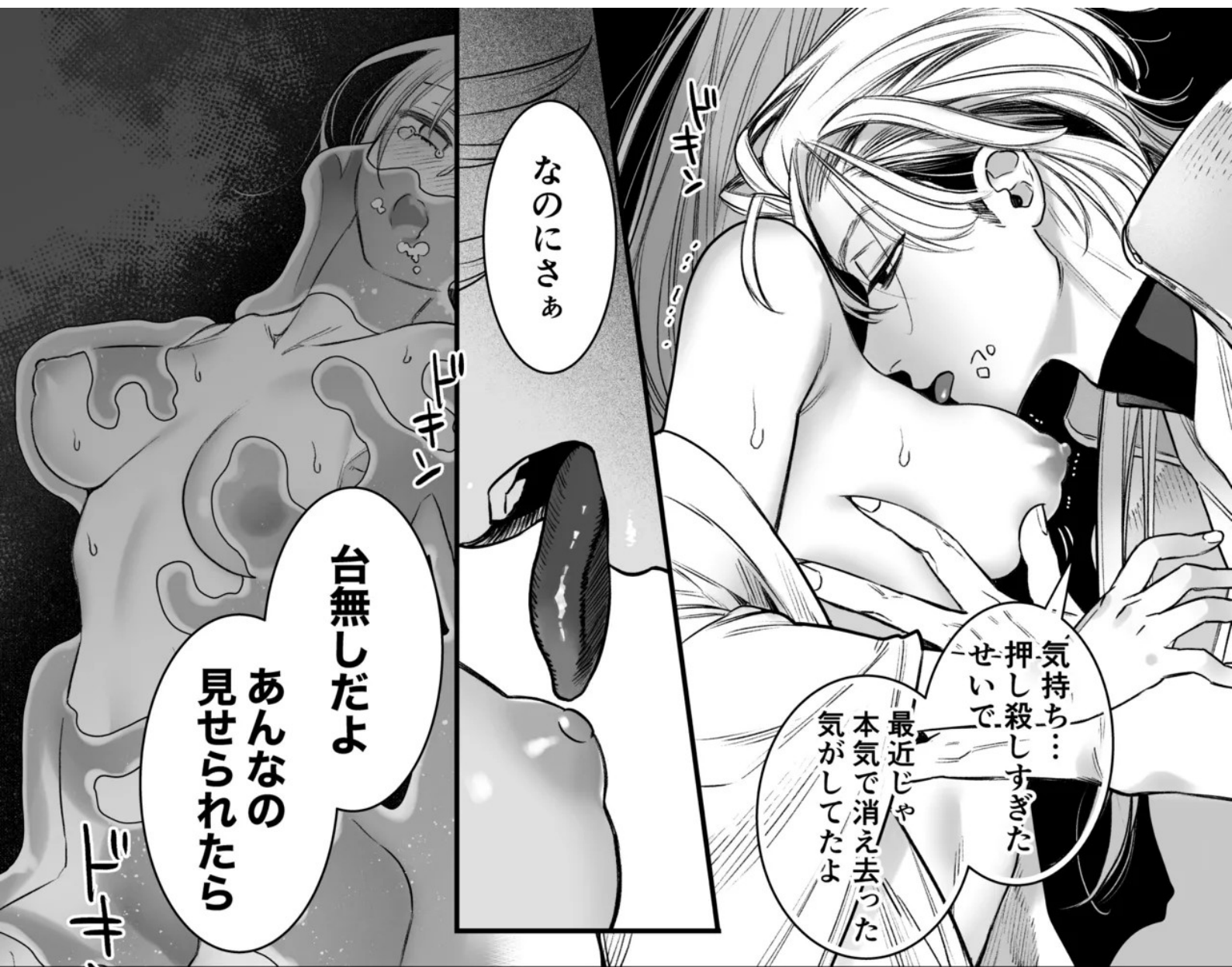
いや……
なのに……



すごく気持ちいい……









乾いて…あつたかい手が…

肌をぐまなくすべって……

どんな顔
見せてくれるん
だろう…って

セラの…
柔らかくて
敏感な場所を
こうして…

撫でたり
味わったり
したら…



毎夜
想像してたんだ



だめ……っ

ぬ……っ

もっと
知りたいよ

やっ…

そっちは…

指…やだ…

嫌…?

くっくっく

でもすごく…
濡れてるよ
セラ…

あぁ…

やめてっ

おねがい
もう…っ

ちゅーぽ

ちゅーぽ

ちゅーぽ

ぬちゅーぽ
声が…っ

ぬちゅーぽ
ぬちゅーぽ
ぬちゅーぽ

ほら…

まだまだ
溢れてくる…

ちゅーぽ

ちゅーぽ

抑えられない… きもちよくて…っ

ちゅーぽ
ちゅーぽ
ちゅーぽ

ちゅーぽ

ちゅーぽ

もっとよく
見せて…

セラのここ
真っ赤になって
すごくキレイだ…

リオンに…見られてる…

誰にも見せたことない場所…

やめて…

みないで
おねが…

味も…
知りたいな

くっく

え…?



あ...あ♡

あ...あ♡

舌...っ

あ...あ♡

あ♡

ぬるぬるして...
すぐく熱くて.....っ

やだ...
やだ...

吸...っ！

なに...これ...っ

全身ゾクゾクして...
何か来る.....

あ♡

あ♡

あ♡



ザッ
はっ

きちやう………

舌……きもちい……

はっ

ベッ
ベッ

リオン………

グッ
グッ

セラ……

オレのこと
考えながら
イッて……

リオン……

アッ
アッ

アッ
アッ

わたしのほうが
半年おねえさんだし
背だってたかいもん

じゃあ
おれがセラより
おおきくて
カッコよくなったら？

そしたらセラは
オレのこと……



リオン……？

セラ……



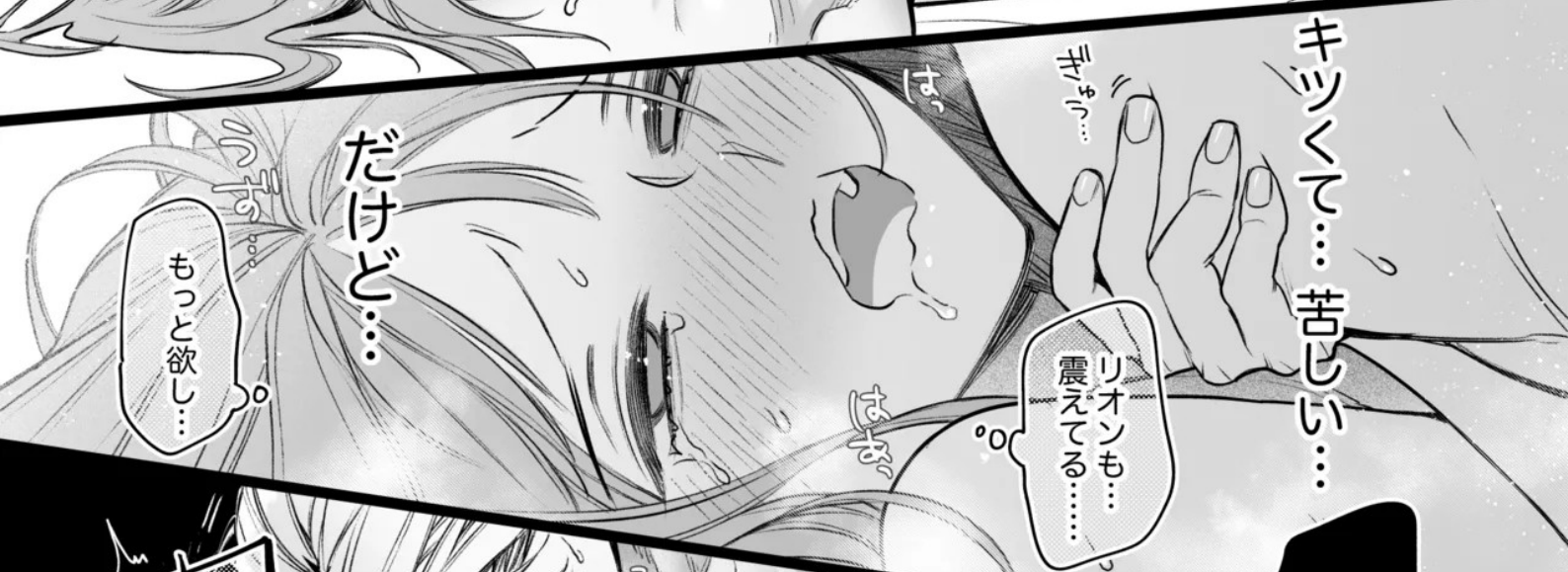


オレのものになって……

大人になってから
初めて見る

リオツの身体……

あ…
あなたに似合う
女性なら…
ほかに大勢……





たっ

たっ

セラ...

セラ...っ

だろ...の...
それ...っ

いま...
敏感なのに...

また...っ

きもちよくなっちゃ...っ

ドン

ドン





リオンのが...

うねりながら...
突いてくる...

ばしゃばしゃ

ばしゃ

あーん
ぐちゃぐちゃ

セラ...

セラ...っ

あーん
ぐちゃぐちゃ

何回も...

何回も...ッ

ずっと...

ずっとこう
したかった...

あーん
ぐちゃぐちゃ

あーん
ぐちゃぐちゃ

OK
♡

ジュジュ



セラ…

はじめて会った
あの時から



毎日ずっと



想像してたんだよ



この瞬間のこと

リオン……

はぁ

う

あぁ……

うわ

うわ

うわ

……

うわ

うわ



ばん♡
言われなくても...
さつきからずっと...

リオンでいっぱい.....

ばん♡

あ...
もっと...
もっと欲し...

オレのことしか
考えないで...っ

セラ...
今だけ...

んあ♡
あ♡

あ♡

あ♡

かっく

ん♡



バク バク バク バク

めづり♡
めづり♡
めづり♡

リオンの……

嬉し……

きもちい……

……どうしょ……私また……

まっしろになっちゃ……

セラ……

セラ……

バク

オレのこと
受け止めて……

ハッ

ハッ

ハッ







あら…
これは例の…



局長

この部屋以外は
すべて搜索を
終えました

ならば二人が
閉じ込められて
いるのはここだな

強制開錠を
開始しますか？

待て

壁の刻印を
よく見てみる



セラとリオン
ですよ？

犬猿の仲だし…
我々の到着まで
開錠されていない
わけですから…



ふむ…

なあ
シルヴィア主任

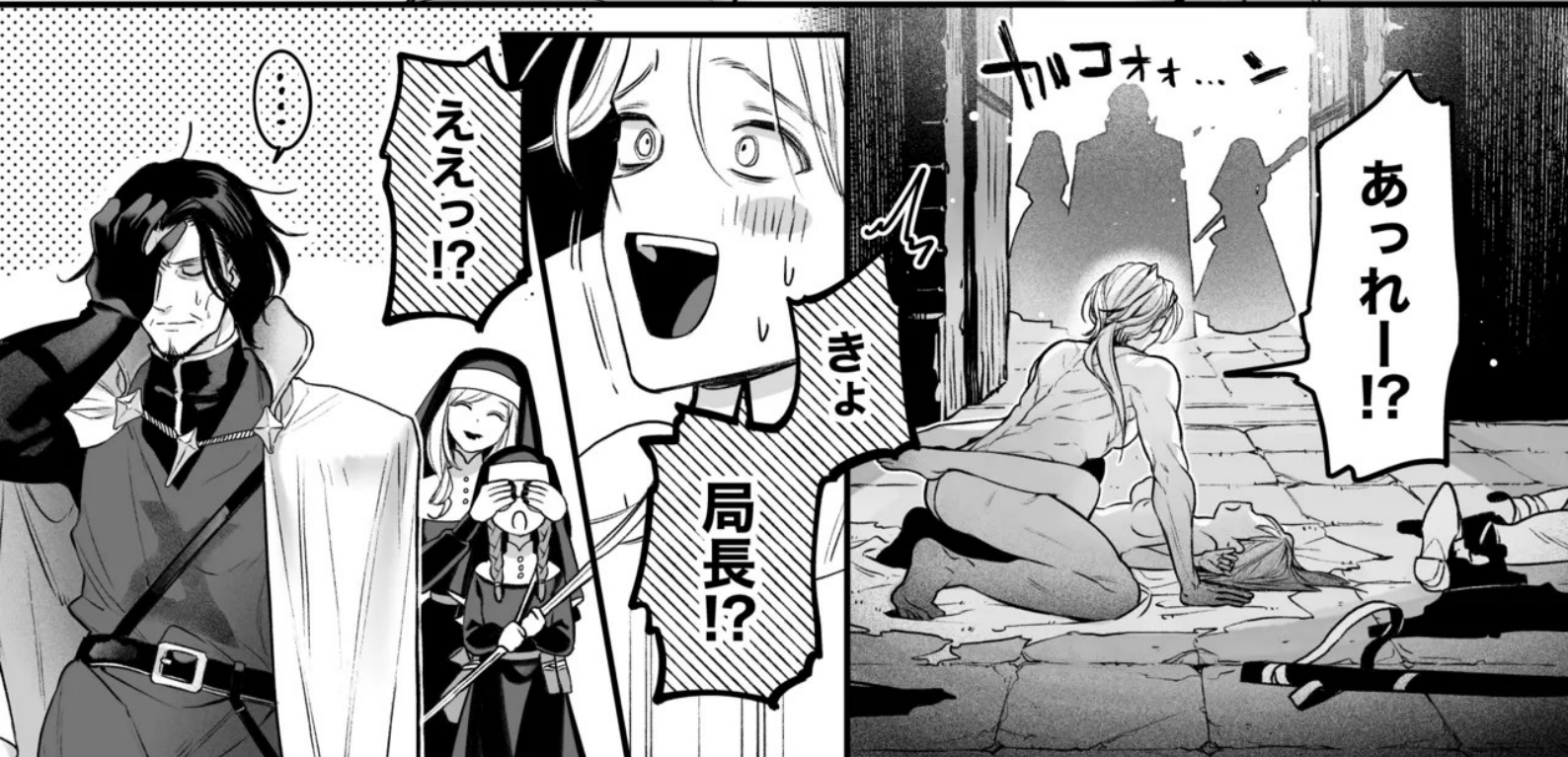
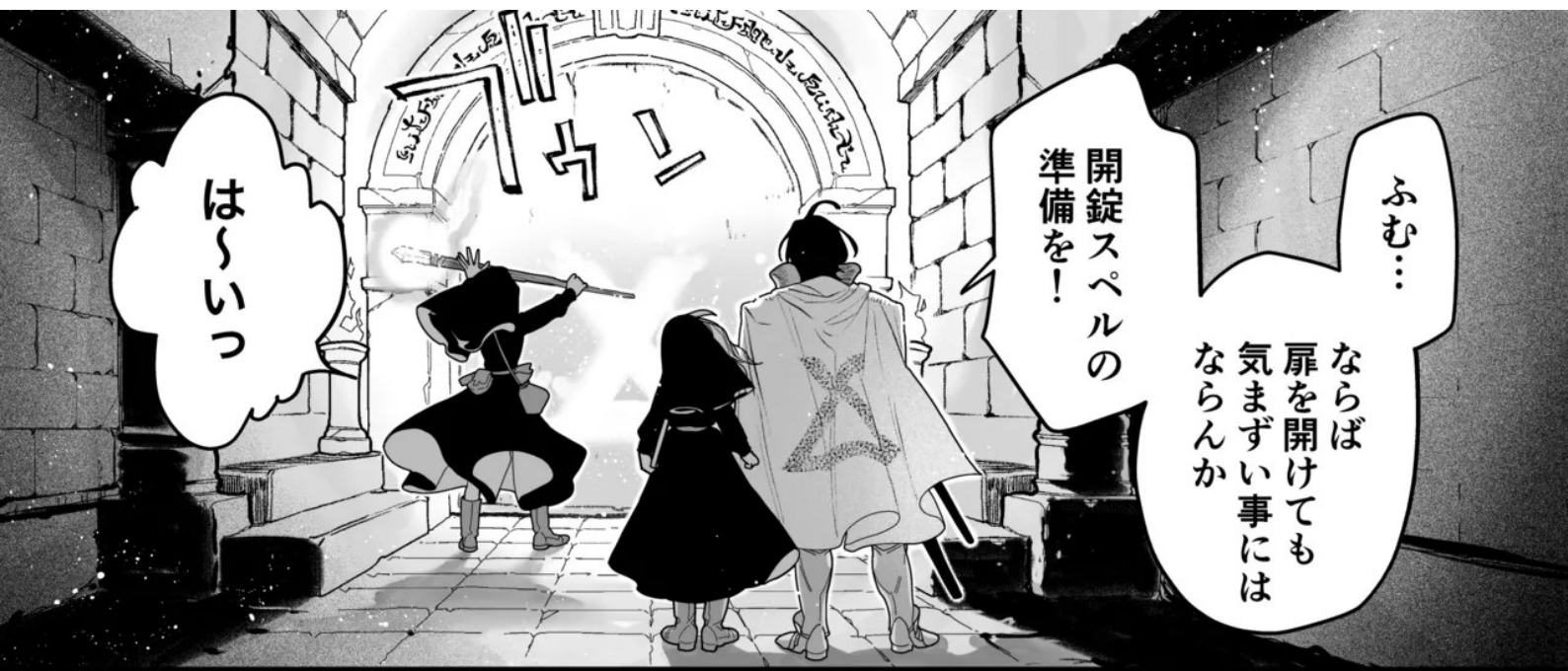
彼らは…その…
「自力で」
脱出できると
思うかね？



異端の儀式の
ための部屋
…ですかね

異端の
儀式って!?

…お前はまだ
知らなくていい



こうして
記念すべき私の
初任務は終わった

「ギミック解除実績」
という評価との
引き換えに

漏れ出た噂話で
数ヶ月は同僚に
避けられるだろう

セラ？

こんな所に
いたのか

そして
リオンとは…

ほら
蜂蜜亭の
カップケーキ

……

いやいや

ケーキ食べ放題の
約束も忘れて
ないって！

そっちは改めて
アポ取るって
ことで…

リオン



セラ…？

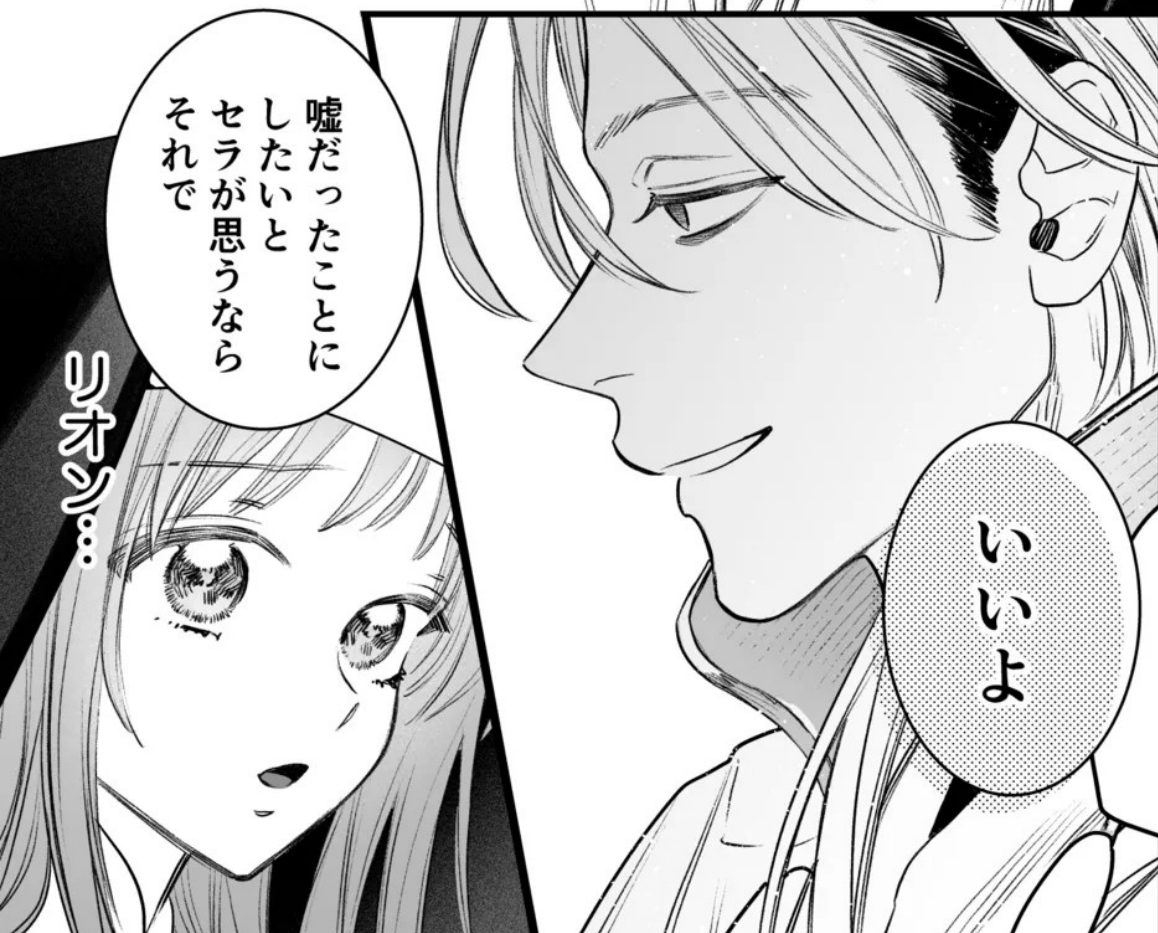
局長が
知ってたなら
あなただって…



あの部屋の
脱出方法を知って
いたはずよね



私を好きだったなんて
本当は嘘なんでしょ？



嘘だったことに
したいと
セラが思うなら
それで

リオン…

いいよ

だから
あんな嘘を…



でも私を
傷つけたく
なかった

じゃあオレ…
もう行くよ

怒ってる…？

あんなことして
ホントにごめん

ちがう
傷つけたんだ

ま

待って

リオンが…
謝らないで…

これじゃ
あの時と同じ…

本当は私が悪いのに

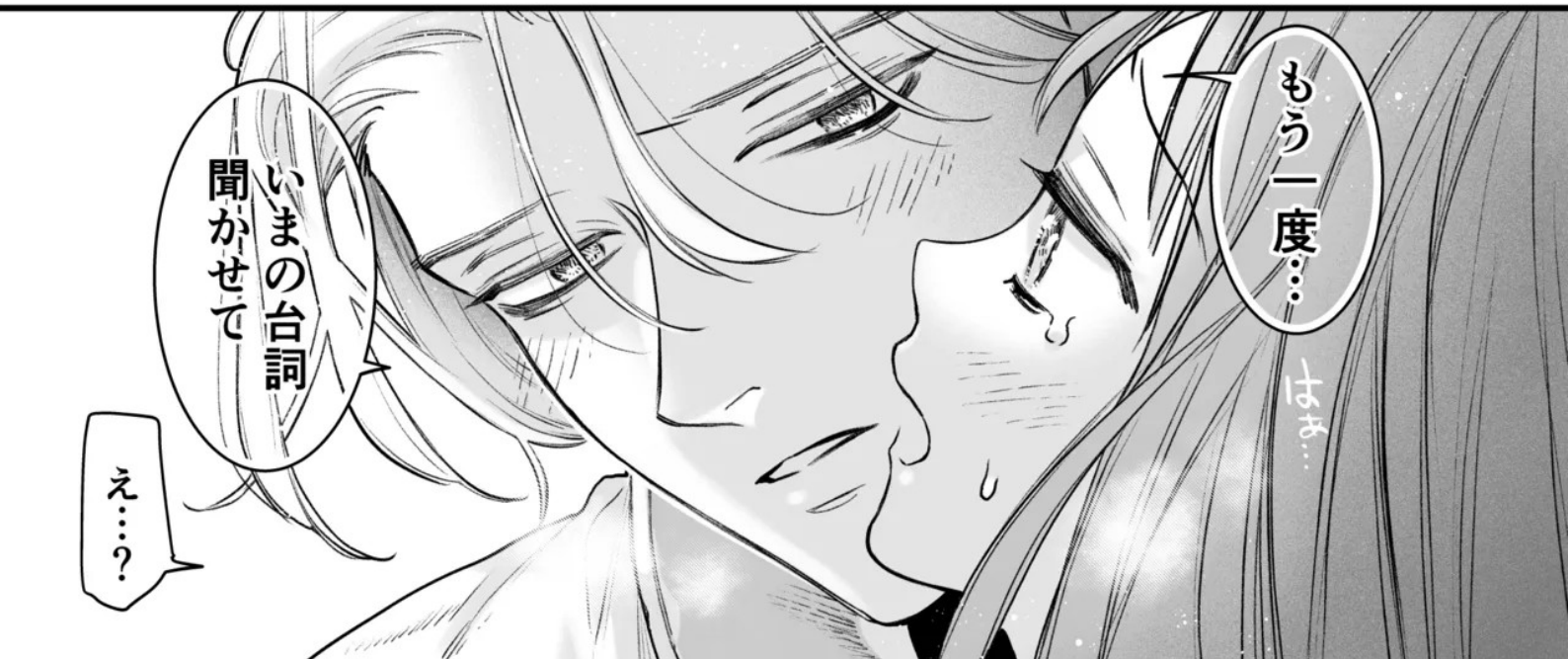
臆病で素直になれない私が…

嘘だったことに
してほしくない

だけど
信じられなくて

だって
リオン一人で
どんどん
かっこよくなつて
いっちゃうし…

ぐすっ



「だって
リオン一人で
どんどん」…？

かつこよく
なつて…

もう絶対
言わないっ

「えー
一生の
おまがら」

私たち…
昔みたいに
戻れたかな

もう一回
聞きたい

ううん…
戻ったわけ
じゃない

あの頃の2人より
もっと特別な関係に……

END

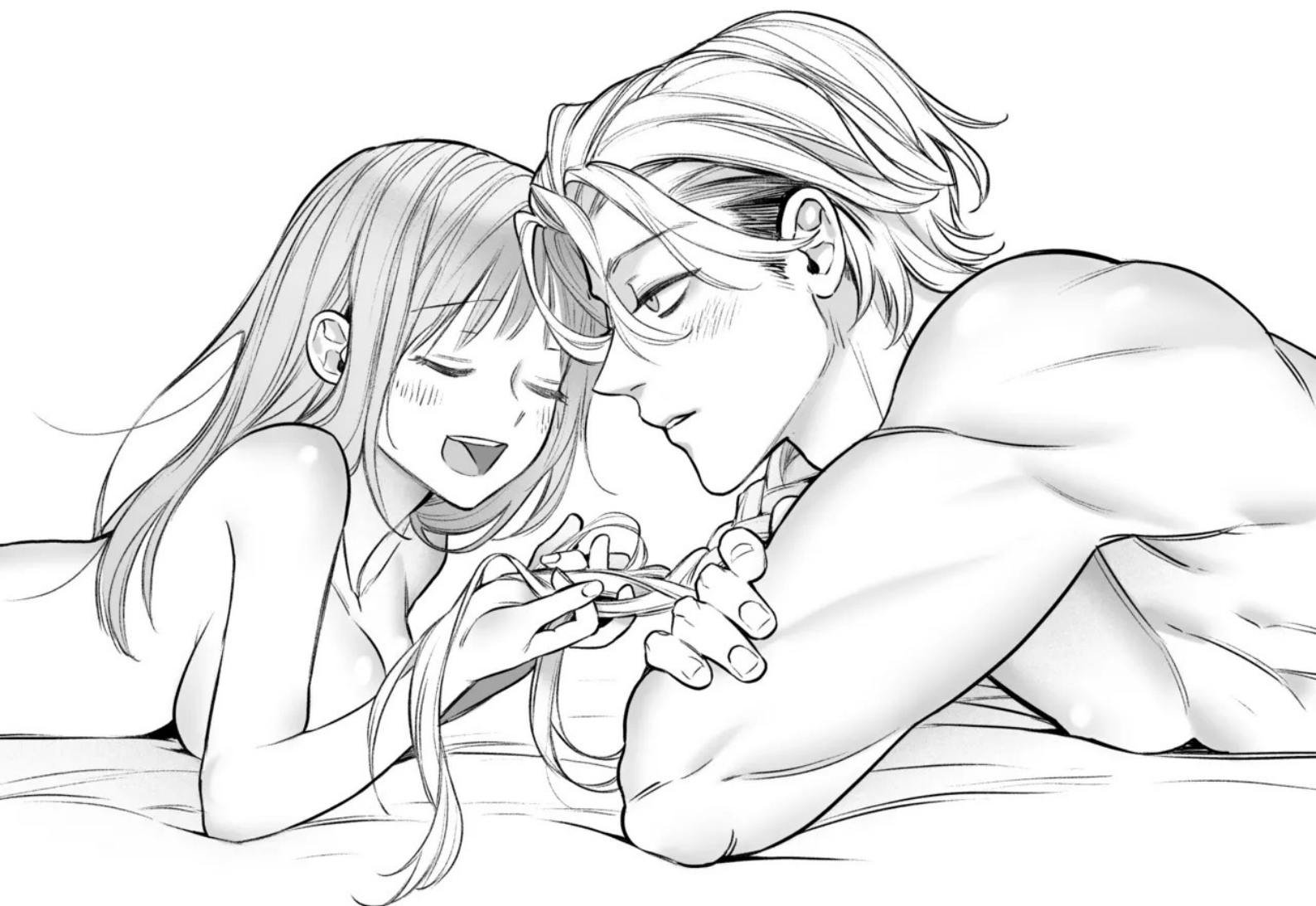
お読み頂き、ありがとうございました！

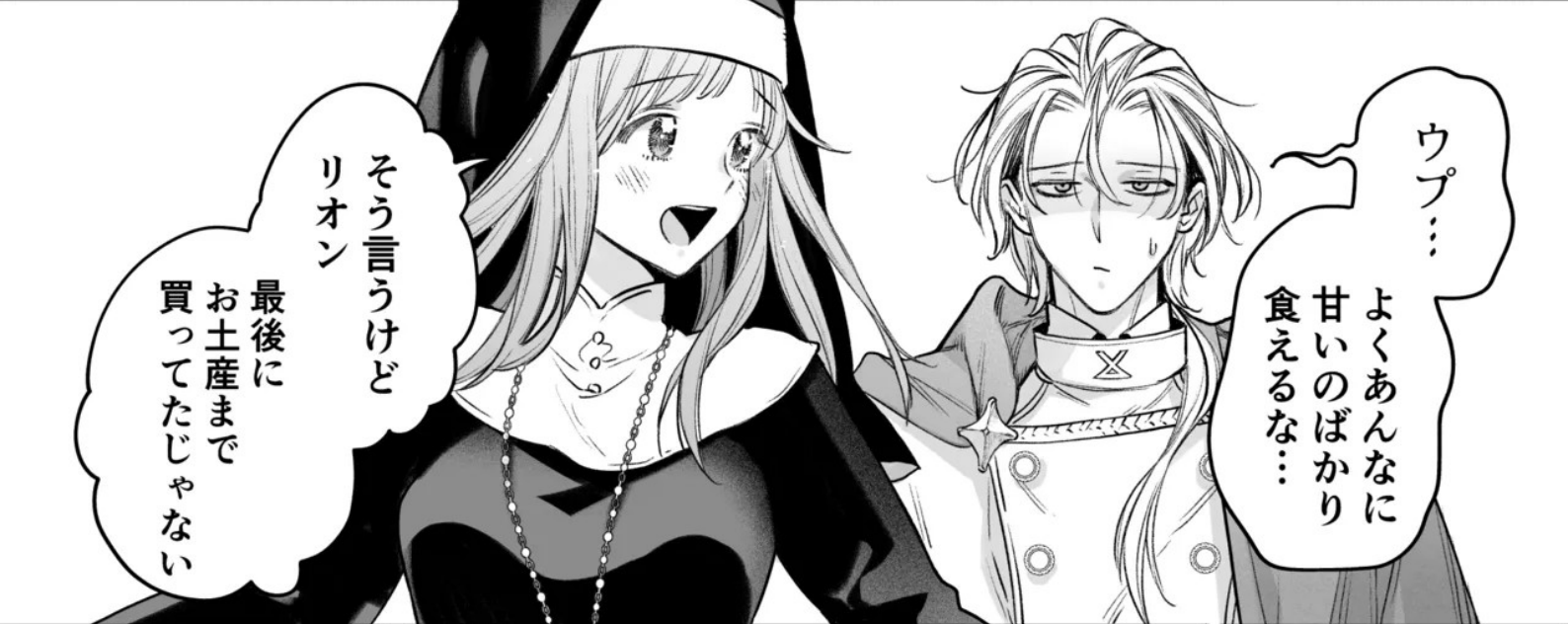
ただの幼馴染のはずだった聖騎士が
ダンジョンの密室で
積年の執着を告白してきた!?

©Visualize/ENVY

All texts and illustrations in this publication are the intellectual property of the author ENVY.
Reproduction, distribution, modification, or publication (including online uploads) without permission is strictly prohibited.

本書の内容の無断転載・複製・配布を禁止します。







少し前に
頼み事をしたから

どうしても
お返しが必要で…

セラの配属直前…

え？

セラの
バディ探査員を
自分に変更して
欲しい？



急すぎるし…
階級も全然
違うし…

おねがい
おねがい
おねがい！

クレアさん…
そこをなんとか



ムリに
決まってるでしょ
そんなの



んぎぎ ギギギ…

わ…かつ…
たわよ！
まったくつ

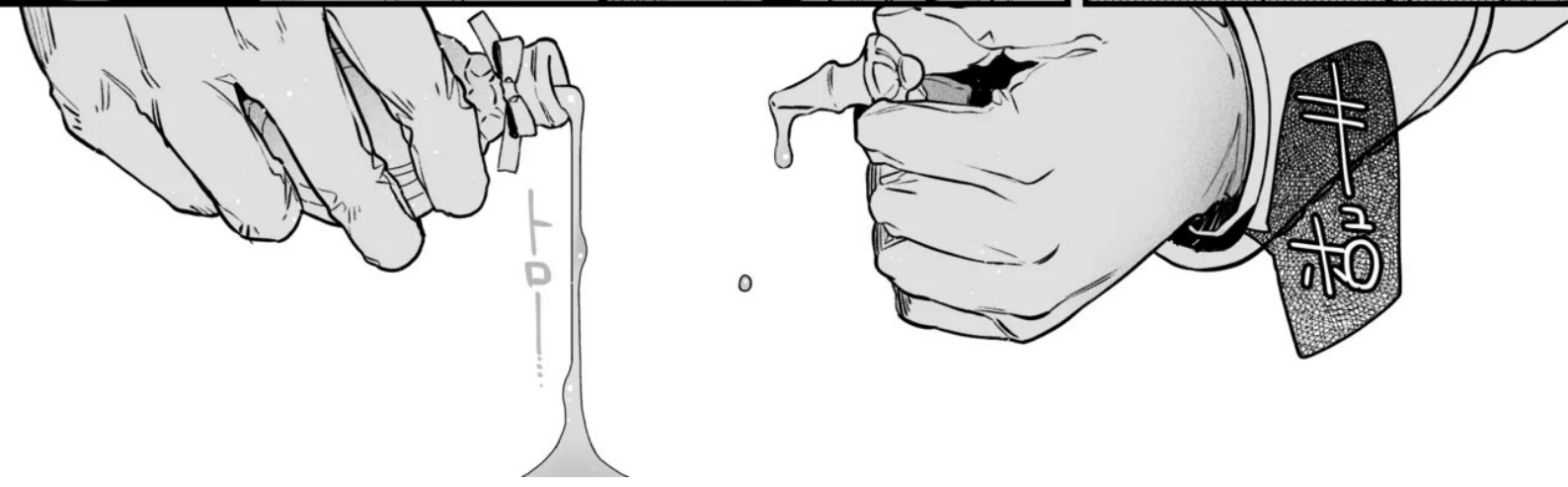
アンタの一生は
何回もあって
いいわね！

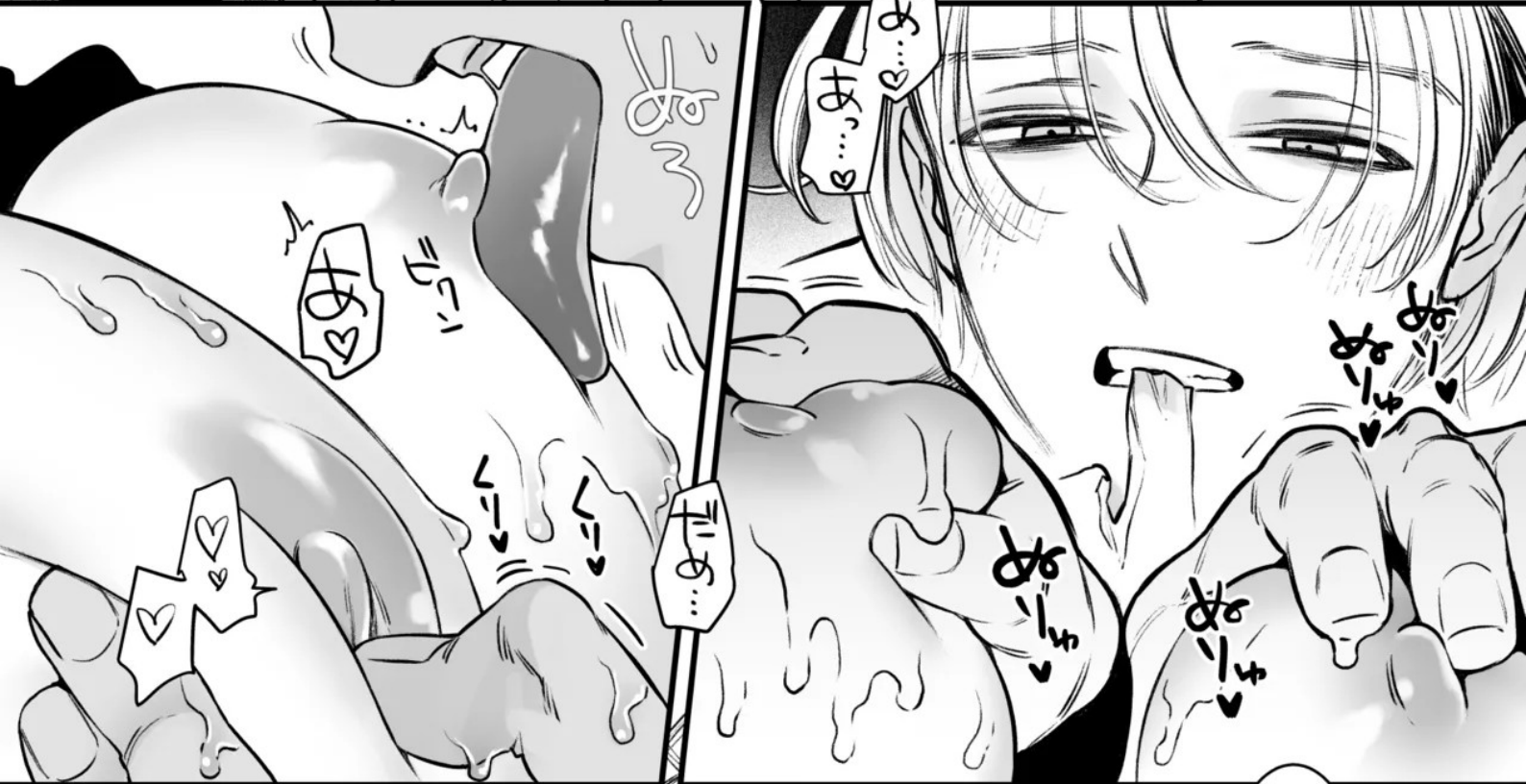
…リオン？



いっ

…しょーの
おねがいっ！







んっ…っ

女子寮…
なんだか…ら…

アラ…
かい…

そう…だよな…

女子寮で
こんなことしちゃ
いけない…よな…

むっ…
むっ…

はっ

リオ…

待っ…



